

# 災害対応能力の強化を図るための支部社屋の移転整備

## 1. 整備計画

三重県支部の現有施設の老朽化に対応するとともに、災害時の拠点を早急に確保するという観点から、三重県赤十字血液センターが令和6年度春に津市内陸部への移転整備を行うのに合わせて、令和6年度内に同一敷地内への社屋の移転整備を行います。

### (1) 整備地

「中勢北部サイエンスシティ」の区域内（津市あのとつ台四丁目8番5）

### (2) 規模

①敷地面積：約4,501.62㎡

②建 物：延床面積 約1,243.85㎡

### (3) 移転整備内容

支部社屋、災害救護支援センター、災害救護用倉庫、災害救護用車両倉庫

### (4) 災害救護拠点としての耐震性

新社屋は、鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）1階建てで、構造体、建築非構造部材、建築設備について、官庁施設や病院と同等の耐震安全性を確保し、建築基準法の耐震性能の1.5倍の性能のある地震に強い建物です。

### (5) 整備のスケジュール

令和6年度の完成を目指して整備を進めています。

令和4年度	用地取得、基本設計、実施設計
令和5年度	入札、工事施工
令和6年度	工事施工、竣工



(左側：日本赤十字社三重県支部社屋・災害救護支援センター、右側：三重県赤十字血液センター)

## 2. 災害救護支援センターの利活用

### (1) 災害時

大規模災害時には、全国から参集する救護班等の要員の活動拠点となる災害対策本部を設置し、受援体制の整備を図ります。また、倉庫には、災害時に被災者にお届けする救援物資や救護用資機材を保管します。



#### ①発災に備えるための機能等

##### □災害対策本部、対策室

災害時にミーティングルームは災害対策本部となり、大会議室は全国からの救護班が活動する災害対策室と、仮眠・宿泊スペースとなります。

##### □シャワールーム

##### □災害救護用倉庫・災害救護用車両倉庫

災害時に被災者を支援する災害救護用毛布、緊急セット等の救援物資が保管されます。

##### □自家発電機

72時間外部からの供給なしで非常用電源の稼動が可能な自家発電機と軽油タンクを整備しています。

##### □安全天井

災害対策本部となる大会議室や倉庫、車庫は天井落下による人員の負傷、車両、救援物資等の破損を防ぐために天井レスにしています。



(安全天井)

##### □クロノロジー用間仕切りホワイトボード

災害対策本部となる会議室には、災害時に受けた情報をホワイトボードに時系列に記録するためのホワイトボード仕様の移動式の間仕切りを設置しています。



(間仕切りホワイトボード)

##### □マンホールトイレ

下水直結のマンホールの真上に簡易トイレとテントを設け、災害時に迅速にトイレ機能を確保します。

##### □屋外ピロティ

災害時に奉仕団が炊き出し等が出来るよう、ピロティには水場、ガス栓を設置しています。



(マンホールトイレ)

## (2) 平常時

平常時は、防災セミナーや救急法等の各種講習会を実施し、防災・減災について学べる施設として活用します。また、利便性に優れた立地に恵まれた環境を活かして、三重県赤十字血液センターとともに多くの県民から利用してもらえる施設を目指します。

### ①防災教育・学習機能

日頃から防災・減災・救護に備え、命を守る知識を体験しながら学べます。

- 防災・減災の研修
- 炊き出し訓練、自治会の防災・減災研修
- 青少年赤十字加盟校の社会見学
- 救急法などの講習会



### ②赤十字活動・広報機能

赤十字活動や事業を誰でもが知り、学べる施設であり、隣接する市民が集う中勢グリーンパークと一体となったイベントを開催します。

- 公園を利用した赤十字イベントの開催
- 赤十字紹介パネルなどの展示やイベントなどのスペースとして活用



(中勢グリーンパーク)



(広報スペース)

### ③ボランティアの活動・交流機能

平時のボランティアの活動拠点として、ボランティアと共に協働できる社屋として活用することを目指します。

- 支部での救護活動を支援するボランティアの研修会
- ボランティアの活動拠点

